



地域の防火・防災の活動に取り組む「仙台市女性防火クラブ連絡協議会」の皆さんにお話を伺いました。

防火・防災力の向上を目指して

火災予防に向けた知識の習得や、地域の防火意識を高めることなどを目的に活動している仙台市女性防火クラブ連絡協議会。昭和38年の発足以来、長きにわたり、地域の防火・防災を支える重要な役割を担ってきました。

▲和紙やペットボトルのキャップで作るミニ纏作りに挑戦！

4月には、組織の活性化を図るため「婦人防火クラブ」から「女性防火クラブ」に名称を変更。連絡協議会会長で、若林地区会長も務める山田はるみさんは「自分たちの地域は自分たちで守る」という思いで活動しています。名称が変わったことで、若い世代の方も参加しやすくなれば」と期待を込めます。

活動は多岐にわたり、初期消火の技術習得や地域と連携して行う防災訓練等、その時々々の状況に合わせて取り組みの幅を広げてきたそう。仕事や家庭と両立しながら活動を続け、長年力を尽くしてきた皆さんの姿に、頭が下がる思いです。

地域に根差した特色ある活動

日頃から消防署と連携し、地域に根差した活動を行っている女性防火クラブ。「街頭キャンペーンをはじめ、住宅用火災警報器の普及啓発などに力を入れていきます」と話すのは、青葉地区会長の佐藤幸子さん。他にも、地区ごとに特色ある活動を行っています。東日本大震災で被害が大きかった宮城野地区では、被災体験の朗読会を開催。宮城野地区会長の野田幸代さんは「建物等の被害だけでなく、大切なものを失った人々の悲しみがあることを若い世代にも伝えていきたい」と話します。若林地区で行っているのは「ミニ纏」作り。「江戸時代に町火消が組の目印として用いた纏の手作り体験を通して、火の用心の大切さを知ってもらえたら」と山田さんは狙いを教えてくれました。

ともに手を携えながら

コロナ禍により、みんな集まっていた活動が難しい中で始まった取り組みも「災害時でも家庭にあるもので作れる食事『サバ・メシ』の普及を目指し、レシピ集を作成しました」と話すのは、泉地区会長の古内昭子さん。お菓子を使った料理もあり、多彩なアイデアに驚きました。太白地区では、小・中学生などが防火・防災やコロナ終息の願

いを込めた七夕飾りを制作し、商業施設等に展示。太白地区会長の佐々木琴世さんは「子どもたちの発想力が生かされ、大変好評でした」と手応えを感じていました。

また、知識の習得も欠かせない活動の一つです。「子どもたちや地域の方々と、救命講習や防災訓練を行っています」と話すのは、宮城地区会長の小松まさ子さん。消防署での講習会等にも定期的に参加し、防災力の向上に努めているそうです。

女性の細やかな視点を生かしながら、地域とのつながりを大切にしたり取り組みをされていると感じました。山田さんは「災害時、大切な家族やその場に居合わせた人を助けることができるように、地域の方々と協力していきたい」と力強く語ってくれました。

火災だけでなく、自然災害が頻発化する中で、日頃の備えはもちろん、地域での支え合いが非常に大切です。皆さんの「地域を守りたい」という思いが防火・防災を支え、安心して暮らせるまちづくりにつながるのだと実感しました。市では今後、女性防火クラブの皆さんと手を携え、市民の安心安全のため力を尽くしてまいります。



▲上段：左から佐藤さん、野田さん、小松さん、古内さん。下段：左から佐々木さん、市長、山田さん

